

女性医師の窓第一回性差医学・医療学会へ参加して  
捨てる神あれば拾ってくれる神あり 学会の報告

赤澤 純代

金沢医科大学で女性外来を2003年3月13日より開設、細々と診療をしており、この日が来るのを心待ちにしておりました。男性の先生も沢山参加され、活発な議論もお聞きできとてもよかったです。

性差医療というとこれまで女性外来がよく話題に取り上げられましたが、男性外来もどんどん普及しており、女性も男性もやはり人間、お互いに半数ずつ、求めるところは同じなんだと感じる学会でした。社会情勢があまりよくない中、不安も募りますが、心と心のコミュニケーションが大切であることが改めて確認できました。これまでの経過を簡単に書きますね。

性差医療・医学研究会は、2003年に「性差を考慮した医療・医学の基礎・疫学・臨床研究」を各専門領域の枠にとらわれず、また医学分野のみの枠にもとらわれずに押し進め、その研究結果を国民の健康維持に反映されることを目的として設立されました。そして研究会の形の学術集会4回を経て、今年度よりその活動の更なる充実を目指し、第一回性差医学・医療学会へと発展した集会が先日行われました。

メインテーマは、「患者に優しい医療：医学から医療へ、医療から医学へ」とあり、特別講演に世界の性差医学医療の第一人者である米国コロンビア大学マリアンヌ・レガート教授と独逸カリテ大学ザグロセク教授のインパクトのある講演を聴くことができました。細々と石川の地で女性外来をしてきた女医のつづやきとして、性差医療の発展があることはとても心が弾みうれしい日でした。また、「新健康フロンティア」の「女性の健康力」に関しても、厚生労働省は昨年12月に発足させた民間有識者らによる「女性の健康づくり推進懇談会」で性差医療に関する議論を深め、更に4月から研究施設や医療現場の要望を聴取して性差医療の具体策をまとめるというよううれしいお話もお聞きすることができました。また、以前石川医報でも少しお話に出ましたが、新健康フロンティア戦略における「女性の健康力」：女性の健康づくりに関して、女性の健康週間を3月1日から3月8日に設けるようです。いよいよアメリカみたいに国民運動になるといいなーと地方で望んでいます。

なぜかという、私の人生結婚前までは以外に順風満帆に過ぎてきました、これもひとえに私を生み育ててくれた両親、支えてくださった沢山の方々のおかげだと最近、心より感謝することが多くなりました。

昨年度の母の病気をきっかけに、これまで自分が気づけなかったことが余りにも多く、一人で生きているのではなく多くの方に支えられ生かされているのだとしみじみ感じることができました。

人生とは何が起こるかわからないものです。東京大学第3内科の分子生物学の研究は順調でしたが、突然の結婚、妊娠で人生が急展開に変化してしまいました。これまで、仕事一筋できたのですが、「女性とはなんたるものか」と考えたこともなく、人生設計もしっかり議論しないまま結婚出産となってしまった何とも不幸でこっけいな展開です。なんとも自分の危機管理の甘さが露呈してしまった訳ですが、人生とは、いたずら好きです。

自分の人生も変動する最中、所属している医局の教授が変わってしまいました。それでも、研究を続ける中二人目の妊娠の為、主人を東大において石川県へ移り住むことになり、母校の金沢医科大学へ勤務することになったのです。でもここでも人生のいたずらが起こり、また、教授選挙の軋轢に苦しむこととなりました。

これぞ、捨てる神あれば拾う神あり、で新たな感謝が生まれることとなります。

外来へ来られている方々も本当の疾患の方もあれば、精神的な方もずいぶん多く見られます。私自身、暗中模索の夫婦関係、社会生活、子育ての真只中です。石川県医師会の女性医師検討委員会へ参加させていただくことができ、素敵な先輩方に出会うことができ、とても勉強になっており感謝しております。また、自分の苦勞をしなくてもよいよう、医学教育の中で早期に女子学生さんに知っていただき、迷わないような人生になってほしいです。

私が、感じて皆様には是非、伝えたいことがございます。

人生を生きていくうえで、自分の中での思い込みがとてつらい感情を作っていました。自分の思いは循環器内科でなければいけないということでした。しかし、新体制の医局の中では、子育て、家庭内事情などの為、まったく相談に乗る余地はありませんでした。人生の挫折・ベクトルの下降を味わっていく中、新しい発見や気づきを妨げるのは、こうあるべきという思い込みだったように今思います。

今は、自分の心の中を整理し、女性医師としての新しいテーマと研究を通して、浅い経験ですが、外来という臨床の場に還元できることを願っています。また、新設された21世紀集学的医療センターは、出身診療科は違っても、女性・性差医療に思いを同じくする先輩後輩女性医師の方など応援してくださる方もおいでで心強く感じ、微力ですが活動を続けております。

その後しばらくして、産後のマタニティーブルーに加え過度のストレス、更に育児も重なり体調が悪い、気力がでてこない、起こらない、そういう状態でした。西洋医学で調べるが、検査血の異常値なく、治療の施しようがない。

こんな時期に上司より、女性外来を開かないかといわれました。東京在住の村崎芙蓉子、対馬ルリ子、天野恵子各先生のところへそのノウハウを習いに行ってきました。そこで、天野先生に誘われて漢方薬と出会うことになりました。自分が服用してみるとめきめきと効果が出たことで、これまで東洋医学を信じていなかった自分が吹っ飛んで行ってしまいました。「悪血」生理前にイライラ(PMS)する腰痛持ちの女性には、桃核承気湯が効きました。それ以来、東洋医学の魅惑にはまり勉強するようになりました。

生理痛でポルタレン潰けだったあの痛みともさよならすることができました。娘さんを持つ先生方！漢方薬も意外に侮れないものです。西洋医学と東洋医学、基礎医学と臨床医学を融合させ、うまく使いこなすことができるように早くなりたいと思う今日この頃の女医の呟きでした。

写真：



マリアンヌ・レガート教授を囲んで



千葉県知事 堂本さんを囲んで